

商工会女性部はまさに
元気と安心をお届けしています。

はちみつ 通信

女性部員全員参加で よみがえる七夕飾りと 地域のつながり

大河原町商工会女性部(宮城県)



大河原町は、仙台市から南に車で約50分、県南地域の交通の要衝であり、白石川沿いに植栽された桜は「一目千本桜」と称され、春には多くの人が訪れます。近年は国道沿いへの新規出店などにより、駅前や中央通りの衰退が激しく、空き店舗が増えている状況にあります。

そのような厳しい状況に加え、新型コロナウイルスの影響により従来の女性部活動もままならないなかでしたが、「でき

ることからやろう」と考え、2021年度から部員の思いをより事業に反映するため、少人数制の「研修事業」『広報』『地域振興事業』の3委員会を組織しました。また、新事業として1955年頃に町内の各商店街で行っていた七夕飾りを復活させた「おおがわら七夕」を実施しました。

町内の小学校3校で成人の2分の1の年齢にあたる4年生216人に大人になった自分の将来像を「夢短冊」と



ひなめぐりの展示風景

ひなめぐりの実施と くわの実ジャムの開発で 地域活性化

佐伯市番匠商工会女性部(大分県)





展示された夢短冊



児童の夢短冊を準備



夢短冊を手にする児童と八重樫部長(右)

して書いてもらい、その短冊を七夕飾りを模したパネルへ貼り付けました。これは、地域住民に見ていただくとともに、児童が大人になった自分と地域との関わりを想像することで、地域への愛着や帰属意識をもってもらいたいとの願いが込められています。その後、短冊はしおりに姿を変え、児童の手元

にお届けしました。七夕飾りの作成では、準備日を複数設けて全部員が参加しやすくしたこと、部での一体感が生まれました。コロナ禍でも女性部全員で事業に取り組んだ経験を生かし、来年度以降も児童が携わる地域イベントとして、継続的に実施していきたいと考えています。

佐伯市は大分県南部に位置し、人口は約6万7000人、面積は九州にある市のなかで一番の広さです。2015年、東九州自動車道が大分から宮崎まで開通しました。これを機に、「市の活性化になれば」という思いから、佐伯市番匠商工会女性部が、お花の先生、市の観光課とともに計画したのが、「城下町佐伯のひなめぐり」です。

このイベントは例年2月下旬から3月上旬まで観光交流館で開催されます。女性部では、地方創生事業（県補助金）を活用し、手づくりで制作した花籠、紙雛、「さげもん」（吊るし雛）や、「ネクタイネットワークス」などの小物類を展示・販売しています。豪華絢爛な飾り付けで、毎年、来場者を驚かせています。

もう一つの目玉は、女性部直川支部の「くわの実ジャム」の販売です。直川地区では、養蚕が盛んだったため、桑の木が多く、毎年たくさんの実がつかれます。これを収穫し、消毒して、調味料を加えてジャムをつくります。販路開拓のため、地元開催の女性部全国大会では、特産品カタログに掲載し、多くの注文をいただきました。現在、地元のスーパー、道の駅などで販売し、売り上げを伸ばしています。佐伯の特産品を目指して、女性部全員ががんばっています。



「くわの実ジャム」の製作用業



地域の養蚕の歴史を伝える桑の実をジャムに